

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅱ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	工藤 優子	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰで学んだことをさらに発展させ、妊娠期の助産過程と助産診断について学ぶ。妊娠期における女性のフィジカルアセスメントや根拠に基づいた助産ケアおよび保健指導について理解を深める。母乳育児をはじめとした育児支援技術や、乳幼児の健康診査について学習する。出産準備教育として母親教室を企画・開催する。また、家族計画と保健指導についても学ぶ。

【到達目標】

1. 妊娠期の助産過程を理解できる。
2. 妊娠期の助産診断に必要な専門的技術を学習し、実践できる。
3. 妊娠期の助産ケア・保健指導の実践を理解し、実践できる。
4. 育児支援、母乳栄養確立への支援について。
5. 親となる人たちへの支援について理解を深める。

【授業計画・内容】

- 第1回 妊婦健康診査
- 第2回 妊婦のフィジカルアセスメント
- 第3回 妊娠期の助産診断と助産過程①
- 第4回 妊娠期の助産診断と助産過程②
- 第5回 妊娠期の助産診断と助産過程③
- 第6回 妊娠期の助産診断と助産過程④
- 第7回 親となる人たちへの支援①
- 第8回 親となる人たちへの支援②
- 第9回 妊娠期の助産診断と助産過程⑤
- 第10回 妊娠期の助産診断と助産過程⑥
- 第11回 家族計画と保健指導
- 第12回 母乳育児支援のアセスメントと助産ケア①
- 第13回 母乳育児支援のアセスメントと助産ケア②
- 第14回 出産準備教育①
- 第15回 出産準備教育②

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

講義内容をふまえ、関連する教科書の範囲を読んでおくこと。講義終了後は授業内容をまとめ復習をすること。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ

【教科書等】

- 1) 助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学
- 2) 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ
- 3) 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期
- 4) 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期
- 5) 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生時期・乳幼児期
- 6) カラー写真で学ぶ 新生児の観察と看護技術
- 7) カラー写真で学ぶ 周産期の看護技術
- 8) カラー写真で学ぶ 妊産褥婦のケア

【参考文献】

随時資料配布

【成績評価方法】

筆記試験 70%、演習・レポート 30%により総合的に評価する

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

実務経験あり。

助産師としての実務経験を踏まえ、事例などを提示し、講義内容の理解が深まるように工夫している

【学生へのメッセージ】

周産期にある女性と新生児をケアするための実践的な講義です。臨床場面をイメージし、なぜそのようにするのかなど根拠を考えながら学習しましょう。